

う き う き

わ く わ く

ど き ど き

し な が ら

は た ら こ う

じ ゃ な い か



あすか製薬株式会社



E



企業理念

私たちには創業以来、常に「生命」をみつめています。
これからも培ってきた技術を基に、
医療関連ビジネスを通して豊かな価値を創造し、
「いのちをみつめる」に挑戦し続けます。

経営理念

先端の創薬を通じて、
人々の健康と明日の医療に貢献する

ビジョン

競争力のある
スペシャリティファーマ

重点3領域に特化した事業活動

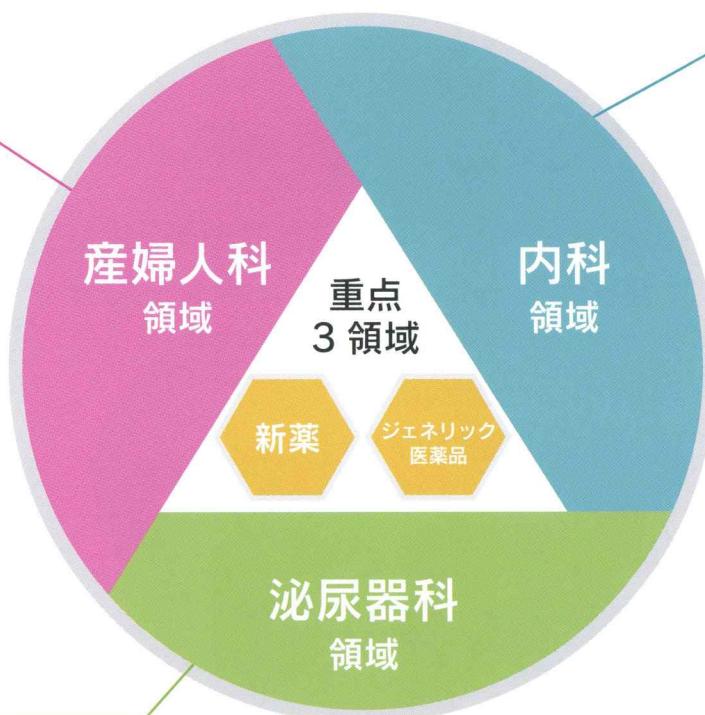
あすか製薬は、「内科」「産婦人科」「泌尿器科」の3つの重点領域に特化した新薬開発、そして時代の要請でもあるジェネリック医薬品の提供という両輪で、付加価値の高い製品をお届けし、スペシャリティファーマとしてのプレゼンスを高めています。

産婦人科領域

低用量経口避妊剤、緊急避妊剤や月経にかかる諸疾病的治療薬をはじめ、妊娠を希望される方のために排卵誘発剤などの不妊治療薬、更年期症状の改善のためのホルモン補充療法薬、妊娠・出産時の管理のための薬剤などを通じて、女性のQOLの向上に貢献しています。

泌尿器科領域

高齢化や食生活の欧米化の影響などにより年々増加傾向にある前立腺癌の治療薬をはじめ、排尿障害や尿失禁に関わる薬剤、男性ホルモンの低下による諸症状に対する治療薬など、伝統のホルモン製剤で培った技術が活かされています。



新薬

内科・産婦人科・泌尿器科の3領域を重点に、あすか製薬ならではのオリジナリティに富んだ価値ある医薬品開発を進めています。

ジェネリック医薬品

カンデサルタン製剤のオーソライズドジェネリックや、LH-RH 誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤「リュープロレリン」など、重点3領域を中心に時代の要請に応えるジェネリック製品を次々と世に送り出しています。

2005年

3

つの重点領域

内科、産婦人科、泌尿器科の3領域に特化した競争力のあるスペシャリティファーマを目指しています。

100

創立

周年

あすか製薬は、研究開発、生産、医薬情報活動を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献しています。2020年6月に創立100周年を迎えます。



めざせ プロフェッショナル

当社の人材育成は「現場で具体的な成果につなげられる」プロフェッショナルの育成に重点をおいています。また、自律的・内発的に「人が育つ」環境を創り出すため「主体的な学びの支援」と「自ら学習する組織・風土の形成」に取り組んでいます。

1ST

2つの

2014年9月にオーソライズドジェネリックを国内で初めて先行発売しました。

また、2016年11月には日本で唯一「肝性脳症における高アンモニア血症の改善」の適応を持つ難吸収性抗菌薬を発売しました。



人材育成

あすか製薬では、人材育成は経営方針に照らして行うものであると考えています。今後、私たちが目指す方向性において、どのような人材が望まれるのかを明確化し、人材育成に反映させることで人的資産価値の最大化を図っています。

7.5 億錠

年間7.5億錠を生産している甲状腺ホルモン剤「チラーチンS錠」に加えて、2015年には抗甲状腺剤を承継。国内における甲状腺剤シェアは約96%です。

国内シェア約

96%



創薬から市販後までのあすか製薬の取り組み

Q 創薬研究本部

人の命に係わる新しい医薬品の創出を通して社会に貢献するため、一人ひとりが有効性・安全性の高い医薬品を世に送り出すことを目指し、創薬プロセスの各段階で活躍しています。

創薬研究本部で活躍する社員



Case 01 大亀 吏江子
医学獣医学総合研究科 修了

開発本部

研究開発プロセスのうち、治験実施から申請・承認業務までを担当しています。社会の医療ニーズにマッチする新薬を、1日も早く、一人でも多くの苦しんでいる患者さんのお手元に届ける事がポリシーです。

開発本部で活躍する社員



Case 02 岡村 嘉人
理学研究科 修了

生産本部

安全性と信頼性を守るために生産管理や製造工程の品質管理徹底のもと、医薬品を製造しています。単に医薬品を製造するだけでなく、工程別の各セクションや他部署とも密に連絡を取りながら常に新しいアイディアを持って、社内外の要望にフレキシブルに応える体制も整えています。

生産本部で活躍する社員



Case 03 青木 亮太
法学部 卒業

営業本部

営業の企画や流通を担当する部署に加えてMRが円滑に仕事を行えるようにマーケティングや学術に関するサポートを行っています。自社製品を医師や薬剤師に広く周知してもらうため、医療関係者対象の学会や講演会の企画・運営や、患者さん向けの疾患紹介冊子の作成などを行っています。

営業本部で活躍する社員



Case 04 大熊 柚衣
外国語学部 卒業

営業本部(MR)

MR(医薬情報担当者)は、医療機関を訪問し、医師や薬剤師などの医療関係者に自社製品を適正に使用していただくための情報を収集・提供します。あすか製薬の顔として誠意と熱意を持った情報活動に努めています。

営業本部(MR)で活躍する社員



Case 05 斎藤 隆一
理工学部 卒業

信頼性保証本部

医薬品の製造から販売後までの品質や有効性・安全性が適正に維持されていることを確認しています。縁の下の力持ちのような存在で、医療関係者や患者さんに自社製品を安心して使用していただきためには必要不可欠で、責任も大きい仕事です。

信頼性保証本部で活躍する社員



Case 08 岩澤まりな
薬学部 卒業

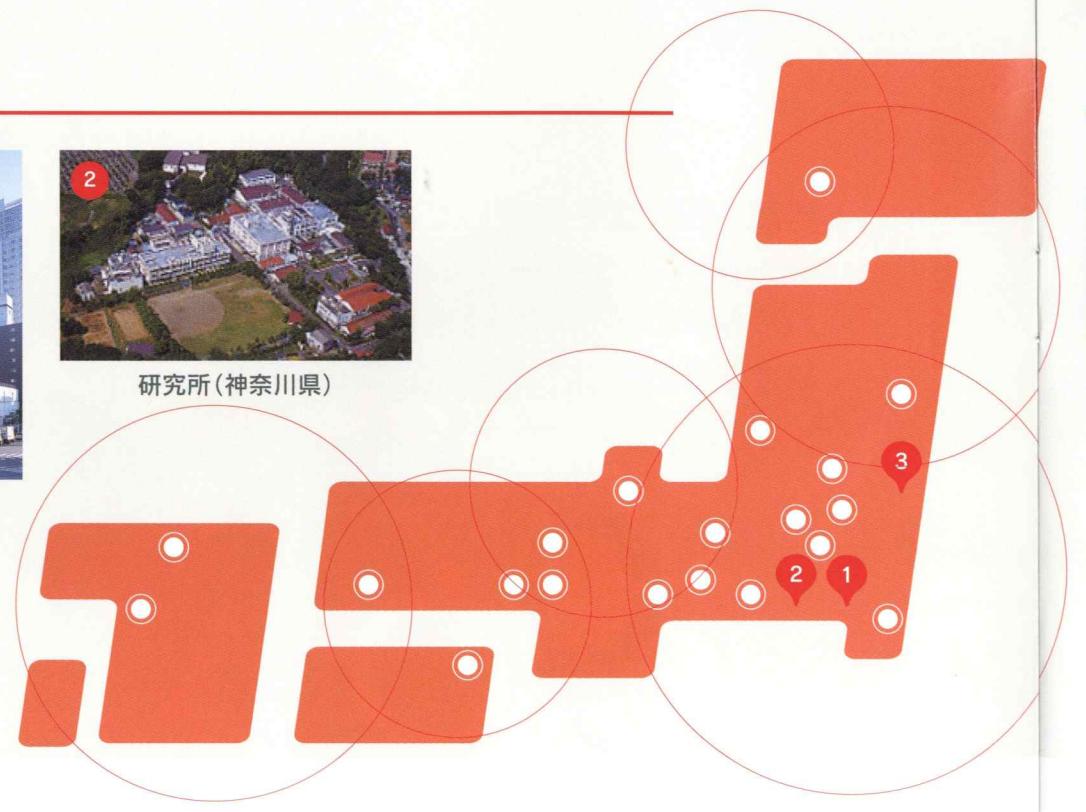
主要拠点



本社(東京都)



研究所(神奈川県)



全国20営業所を展開



工場(福島県)



Case 06 佐藤 愛子
生物資源科学部 卒業



Case 07 鈴木 茉莉
生命科学部 卒業



あすか製薬株式会社

Case
01創薬研究本部
大亀 吏江子

Rieko Okame

医学獣医学総合研究科 修了
2015年入社専門領域での存在感は
あすか製薬の強み

私の所属する安全性・代謝研究部では、主に動物や細胞を使って、新薬候補化合物の動態や毒性の評価を行っています。その中で、私は化合物の毒性評価や機序検討などを行っています。毒性の評価においては、動物に対する毒性の有無を確認するだけでなく、毒性機序や生理的な仕組み、種差などを考慮し、臨床でのリスクを判断することが求められます。毒性の正体を見極めてヒトへ適用するには、生理学的な基礎はもちろんのこと、それを繋ぎ合わせる発想力や想像力が必要になってきます。疑問に感じたことは調べ、試行錯誤して得られた結果を深く掘り下げていき、新たな知見へと繋げていく。その繰り返しがこの仕事の大きな魅力で、やりがいを感じます。また、あすか製薬の強みは、専門領域での存在感だと思います。患者さんや医療関係者に「あのあすか製薬だね」という言葉をいただけると、専門領域でこれまで培ってきた信頼感を感じられ、社員として誇りであるとともに、非常にうれしく感じます。あすか製薬の良さは、温かな社風に加え、意見交換がしやすい環境があること。社員全員がお互いを尊重し、目の前の仕事に対して真摯に取り組んでいるからこそ、外部の方にもその想いが伝わるのだと思います。現在、甲状腺領域のテーマを担当しています。他部署の担当者と知恵を出し合いながら取組み、有効性、安全性の高い医薬品を早く患者さんへ提供することを目指しています。



One day schedule

- 08:00 出社後、メールチェック
- 09:00 実施する予定の試験計画の確認
動物への葉物投与、状態観察等
- 13:00 部内ミーティング
進行中の試験結果報告、ディスカッション
- 14:00 臨床病理検査の実施
- 17:00 データ解析、文献調査、レポート作成
- 19:30 業務を終え、帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 大亀 吏江子Case
03生産本部(いわき工場)
青木 亮太

Ryota Aoki

法學部 卒業
2015年入社自分たちが造った製剤で
患者さんを笑顔にできる

錠剤の母体となる顆粒を製造する造粒工程に携わっています。工程では、製造日当日の気温や湿度、製造に使用する精製水までも考慮し、秤量された種類の違う原料を1つの粒子にしていきます。製剤の製造は季節や天候などに大きく左右されることが多く、加えてGMP（医療品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）に規定された国際基準をもとに作業を進めなければならないなど、他の業種の製造に比べ非常にシビアです。それだけに、どのように環境が変化しても毎回同じものを造り続けることは大変ですが、出来た時の達成感は大きなものがあります。また、自分たちが一生懸命に造った製剤で多くの患者さんを笑顔にすることが出来ると思うと、今はこの仕事に携われて良かったと思っています。

私たちの工場では、兄弟と同じ年や、両親よりも年齢が上の人など、実に幅広い年齢層の人たちが一緒に仕事をしています。それにも関わらず、工場全体が日々まるで大きなファミリーのように接していく、職場内のコミュニケーションは活発です。そうした職場環境に恵まれているのはあすか製薬で働く大きな魅力です。今は知識も経験もまだ不足しています。早く製薬製造に関わる全ての工程を自分で理解し、将来は「あの工場には青木がいるから大丈夫」と周りの人から認めてもらえるように実力をつけたいと思っています。



One day schedule

- 08:15 出社後ラジオ体操
職場内で本日の作業ミーティング
- 08:45 製造現場に入り作業開始
主に練習と乾燥工程
- 12:50 午後からの作業再開
主に整粒と混合工程
- 15:30 本日の生産終了
- 16:00 次日の作業の準備やファイルアップ
- 17:30 業者とのメールのやり取りや書類整理などの雑務を終え、帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 青木 亮太Case
02 開発本部
岡村 嘉人

Yoshihito Okamura

理学研究科 修了
2014年入社新薬で患者さんを助けたい、
喜ぶ姿が見たい

One day schedule

- 09:00 出社後、メールチェック
- 10:00 社内ミーティングを行い、担当施設の治験の進捗状況について情報共有する
- 13:00 担当施設へ訪問し、医師と今後のスケジュールについて協議する
- 16:00 担当施設での訪問内容を報告書にあげる
- 18:00 業務を終え、帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 岡村 嘉人

現在、産婦人科領域の新薬の開発に携わっており、治験に関する契約書の作成や医療機関の治験担当者への説明などを行っています。新薬を一日でも早く世の中に出し、新たな治療方法を提供することで、患者様の日常生活をより良くすることができます。それが私の日々のモチベーションになっています。そのためには治験をいかにスムーズに進めることができるかが鍵となります。医療機関の治験担当者への説明に際しても、どうしたら新薬のメリットを理解していただけるかを考えながら伝えるようにしています。開発担当者は、臨床試験を第Ⅰ相試験から第Ⅲ相試験まで進めていく中で、開発中の新薬の知識を蓄積することができるとともに、治療対象となる疾患に関する知識も含めて高い専門性を得ることができます。また、若いうちからいろいろなことに挑戦できる環境もあります。それは、あすか製薬ならではの良さであり、強みであると考えています。新薬を世に出すのは簡単なことではありませんが、その苦労を背負ってでも新薬で患者さんを助けたい、患者さんの喜ぶ姿が見たい。そんな熱い想いを共有してくれる人たちと一緒に、これから的新薬の開発に挑んでいければ嬉しいです。

One day schedule

- 08:30 出社後メールチェック、業界紙を読む
その日すべきことを確認
- 10:00 課のメンバーで打ち合わせ
- 11:00 毎週配信する資料の作成
- 14:00 MRとクリニック同行
共催する患者さん向けセミナーの講演依頼
- 16:30 帰社 制作会社と作成中の資材の打ち合わせ
- 18:30 翌日の予定を立て帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 岡村 嘉人

Case
04 営業本部
大熊 柚衣

Yui Okuma

外国語学部 卒業
2013年入社

女性の幅広い
ライフステージを支援

あすか製薬は、歴史あるホルモン製剤の技術をもとに、産婦人科領域を重点領域の1つにしています。赤ちゃんの誕生から思春期、性成熟期、更年期まで、すべての世代の女性に向けた製品があり、女性の生涯を通じた健康と実り豊かなライフステージの創造をサポートしています。私はこの産婦人科領域の製品ラインナップをどのようにプロモーションしていくか、戦略に関するさまざまな業務を行っています。講演会やセミナーの企画や運営では、準備期間を含めると半年以上かかるものがあり、一つひとつの仕事は細かく、手間もかかります。それでも、自分が主体的に携わった業務に対して参加者から良い反響を得ることができたときには、やりがいを感じます。私は女性として産婦人科領域に関心があり、MRとしてあすか製薬に入社しました。3年間、営業の第一線で仕事をし、現在の部署へと異動しました。本社に異動になる際に、担当先の先生方や特約店の方々、他社のMRの方々がとても残念がってくださったことは、印象に残る嬉しい出来事でした。毎日必死で担当エリアを回っていましたが、仕事で携わった皆さんのがその努力を見ていてくれたことや、誰かの役に立っていたことがわかり、「やってきて良かった」と心から思いました。今でも連絡をくださる先生や、私のことを話題に挙げてくださる先生がいるのはありがたいことで、現在の業務でも励みになっています。

08

09



Case
05

営業本部:MR
斎藤 隆一

Ryuichi Saito

理工学部 卒業
2015年入社

真摯で誠実な対応が
信頼につながる

MRとして、あすか製薬の医薬品情報を医師・薬剤師といった医療従事者に提供することで、医療の幅を広げる仕事をしています。私の担当エリアの人口は約70万人です。いわば日本の総人口の約0.5%に対する医療にMRとして携わっていると考えると、情報活動の重みや責任が大きくなっています。また、MR活動を通じて、医薬品の適正使用を促すだけでなく、その地域の医療の在り方をも変えることができ、大きなやりがいとなります。私が仕事をする中で常に心がけていることは、真摯で誠実な対応です。私はもともとあまり積極的に話をするタイプの人間ではありません。現在も、先生との会話や得意先との電話対応など、得意だとは決して思いません。しかし、眞面目に訪問し、約束を守り、質問に迅速に回答するなど、普段の何気ない仕事を確実に実施することで医療従事者からの信頼を得られ、それが結果にも繋がっています。

あすか製薬には非常に頼れる先輩が多く、仕事内容に関してまず困ることはあります。私も新人の頃、先輩から厳しくも温かいバックアップをしていただき、大きく成長することができました。社会人としての最初の3年間は今後の人生設計において重要な時期であると考えています。その時に手厚く支援いただけたことで、自分自身の成長を実感することができました。



One day schedule

- 08:00 特約店訪問
- 10:00 内勤（近隣の喫茶店）
- 12:00 病院（消化器・薬剤部）へ訪問
- 15:00 クリニック（産婦人科）へ訪問
- 17:00 病院（消化器科・産婦人科）へ訪問
- 19:30 帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 斎藤 隆一



Case
07

営業本部:MR
鈴木 茉莉

Mari Suzuki

生命科学部 卒業
2016年入社

患者さんから
感謝の言葉をもらえるのは
大きなやりがい



One day schedule

- 08:45 特約店訪問 MSさんと施策の進捗状況確認、施設の情報交換
- 10:00 ファミレスで内勤 メールチェック、予注状況入力
- 12:00 得意先訪問（クリニック、病院、薬局）
- 15:00 得意先訪問（クリニック、病院、薬局） 面談後は、車で内勤
- 17:00 得意先訪問（クリニック、病院、薬局）
- 19:30 帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 鈴木 茉莉



Case
06

営業本部:MR
佐藤 愛子

Aiko Sato

生物資源科学部 卒業
2015年入社

薬の力、
ホルモンの力はすごい



One day schedule

- 08:00 特約店へ訪問
- 10:00 出社 内勤業務
- 12:00 クリニックへ訪問
- 14:00 午後診療中に訪問可能なクリニックや薬局へ訪問（5~6軒）
- 17:00 病院へ訪問
- 19:00 帰宅

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 佐藤 愛子

もっと詳しく読みたい▶

あすか製薬リクルートサイト
先輩社員の声 岩澤 まりな



Case
08

信頼保証本部
岩澤 まりな

Marina Iwasawa

薬学部 卒業
2015年入社

安全性と有効性の追究に
テストのような正解はない

医薬品は人の命に大きく関わります。医療関係者や患者さんに安心してご使用いただくために、品質や安全性は最優先に考えなければいけません。医療現場で使用されている自社製品の安全性や有効性に関する情報を収集し、適正使用を推進するのが私の役割です。もしも、安全性や有効性に問題が見つかり、医療現場での使用や患者さんの服薬に影響すると考えられる場合には、必要に応じて添付文書の改訂や医療機関へ提供するお知らせ文書の作成などを行います。仕事には、学校で受けるテストのように必ずしも正解があるわけではありません。そのため、現状を踏まえたうえで全体のバランスを考え最善策を見つけ出すことを心掛けて、日々業務を遂行していくことが求められています。

あすか製薬は社員数約900人という規模の会社で、いわゆるメガ・ファーマではありません。しかし、だからこそ一人ひとりに任される裁量も大きく、そこが大きなやりがいとなっています。若手のうちから大きなプロジェクトを経験できるため、多岐にわたる業務に携わることができます。現在まで培った経験は誰よりも幅広く、それは今後にも役立てていけると確信しています。

現在所属している部署には若い女性が多く、子育てと仕事を両立している社員もいます。私自身も、将来は働くママとして家庭と仕事の両立を図り、責任ある立場として自社製品の有効性と安全性を守る先鋭として活躍したいと考えています。

佐藤 郁也

開発本部
2001年入社 薬学部薬学専攻

いまだに有効な治療法や薬剤のない患者さんの存在をなくしたい。
そんな想いから「リフキシマ」は生まれた。

PROJECT STORY CONTENTS 01**国内で極めて患者数が少ない希少疾病、肝性脳症の治療薬に挑む**

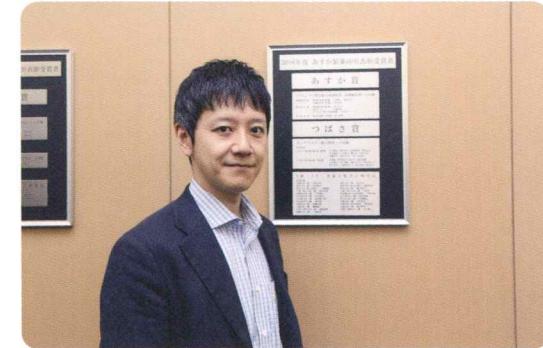
多くの優れた薬剤が世の中に送り出されている現代においても、アンメット・メイドニーズ（満たされない医療ニーズ）と呼ばれる、いまだに有効な治療法や薬剤のない疾患が存在する。あすか製薬は、製薬メーカーの使命として、このような医療ニーズに応えることのできる価値の高い薬剤の開発を目指している。その象徴的な存在となつたのが、2016年11月に発売された、国内で初めて肝性脳症の適応を取得した「リフキシマ」である。



「リフキシマ(一般名：リファキシミン)は肝性脳症の治療薬として、すでに海外の多くの国で広く使われている薬剤にも関わらず、日本ではまだ発売されていない状態でした」と、佐藤は当時の状況をそう語る。待ち望んでいる患者やその家族のためにも、日本でこの薬を使えるようにしたい。そんな想いから開発がスタートしていった。

PROJECT STORY CONTENTS 02**このままで薬を飲み続けたいという患者の声に成功を確信した。**

肝性脳症の患者さんを対象にした治験は、日本ではリフキシマで初めて行われた。誰も実施したことなく、すべて初めての経験だった。しかも肝性脳症は希少疾病であり、国内の患者は推定約2万～4万人と数が少なく、治験のエントリーは困難を極めた。それでも、佐藤は2011年の少数の健康な人を対象にした第Ⅰ相試験から、患者を対象にした第Ⅱ／Ⅲ相試験と、治験を一步一步進めていった。「初期の段階で、患者さんが『この薬を飲んでから調子が良くなった。このままでこの薬を飲み続けたい』とおっしゃっているという報告を受けました。それを聞いて、これは絶対いけると、成功を確信しました」。加えて開発の追い風となったのは、2013年5月に厚生労働省から希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定を受けたことだ。それにより開発は一段と加速していった。

**PROJECT STORY CONTENTS 03****予想もしなかった継続審議。それが逆に佐藤に火をつけた。**

2016年5月末、順調にいけばPMDA（医薬品医療機器総合機構）から製造販売の承認が下りるはずだった。しかし、佐藤たちの出した承認申請の結果は予想もしなかった継続審議となつた。「継続審議と言われたときには目の前が真っ暗になりました。でも、待っている患者さんがいる。絶対にあきらめるわけにはいかない」と、逆に火がつきました。もう承認取得は無理なのではないかという憶測も飛び中、社内外の各部門の

スペシャリストと共に、承認のために求められている回答を最速で出し直し、9月には無事製造販売承認を取得。2016年11月、待望のリフキシマが発売された。「点滴に週3回病院に通わなければいけなかつた患者さんが、錠剤のリフキシマによって点滴がいらなくなったり、自宅で過ごせるようになつたと聞いたときは、やはりいい薬なんだと実感しました」。

PROJECT STORY CONTENTS 04**リフキシマの適応拡大へのチャレンジがスタート。開発に終わりはない。**

リフキシマの開発を通じて、第Ⅰ相試験から第Ⅲ相試験、薬価交渉、承認取得まですべてに関与できただけでなく、佐藤の大きな財産となつた。「大きな製薬会社の場合は、すべてが分業制になっていることも多く、臨床試験もフェーズごとに担当が分かれています。あすか製薬ではそれらに一貫して携われ、他の会社ではできない経験ができたというのは開発者にとって大きな魅力です」。現在、佐藤はMSL(Medical Science Liaison)という専門性の高い医学的情報を基に、医師とのやり取りや、開発部門と情報を共有しながら臨床試験の支援などを行うチームに所属。海外の提携会社とも協力し、リフキシマの適応拡大を進めている。

「日本小児栄養消化器肝臓学会から『小児における肝性脳症』に対する適応の要望書をいただいたおり、まずはこの効能追加に取り組んでいきたいと思っています」。待っている患者さんがいる限り、開発という仕事に終わりはない。

**One day schedule**

09:30	⌚ 出発
10:00	⌚ 面談時間まで、資料の確認 終了後メールチェック
11:00	⌚ 面談（60分）
13:00	⌚ 昼食
14:00	⌚ 新幹線で東京へ
16:00	⌚ 帰社後、ミーティング
18:00	⌚ 帰宅

Column**オーファンドラッグの指定を受けることの意義**

オーファンドラッグとは、患者数が5万人未満の疾患を対象として、医療上特にその必要性が高いとされる医薬品のことです。指定されると、研究開発のための助成金が交付されるほか、ほかの薬に優先して承認審査が行われるなど、各種の措置が受けられる。製薬メーカーとしては開発に注力しやすくなるとともに、患者さんにとっても待ち望んでいる薬がいち早く提供されることにつながる。



あすかにしかできない活動を通じて、医療に貢献できること。

課員一丸となって行動し、大きな目標を達成した。

自身が携わった医薬品が患者さんの手元に届くことを想像したとき。

うきうき

研修を通じて参加者や患者さんの「ありがとう」の声が届いたとき。
業務上いろいろな部署の人と交流ができること。

自身の提案が認められ新たな戦略や方向性を考えるとき。

社内プロジェクトメンバーに選ばれたとき。

わくわく

新薬を世の中に出すことで患者さんの生活をより良く出来る!

日々の研究が医療に貢献する未来を考えるとき。
会社全体で“変化し続ける”ことを楽しんでいる。

どきどき

配属時、知らない土地での新しい生活。
病院の薬審で自社品が採用されるのを待っているとき。

Dr.と面談する前はいつも緊張します。

説明会や会議で大勢の前でプレゼンするとき。

若い時から大きなプロジェクトに携われる！

あつめようじゃないか

最も重要な財産は人である。

あすか製薬は、人が財産の企業です。それゆえ、社員を大切にし、社員に応える企業でありたいと考えています。

社員の成長・活力が会社の成長と発展を支えるという基本理念のもと、経営ビジョンにシンクロした人材育成プログラムを整備し展開しています。

人材育成

単なる資質向上を目的に行うのではなく、「現場で具体的な成果につなげられる」プロフェッショナルとしての意識やスキルに重点をおき、右記のような「目指すモデル」を掲げています。

- Model.1** 自ら考え、前に踏み出す人
- Model.2** 高い視座から変化を捉える人
- Model.3** 協働しながら共に成長する人

年次ごとの育成目標

- 1年目** 社会人として信頼される人になる
- 2年目** 組織から頼られる人になる
- 3年目** 企業人として成長する

また、入社してからの1年間は、新入社員の会社や仕事に対する期待と不安を先輩社員が受け止めるサポート制度があります。

フレッシャーズリーダー制度

フレッシャーズリーダーと呼ばれる先輩社員が定期的に研修やレク活動を行い、新入社員へあすか製薬で働く価値を伝える制度です。

メンター制度

職場の先輩がメンター(育成者)として身近な相談相手となり、仕事を円滑に進めるためのサポートを行う制度です。

研修制度



新入社員導入研修

入社後の約2週間は、あすか製薬の各部署について理解を深めると共に、働くためのマナーや基礎スキルを身につける研修を行います。

MR研修

導入研修終了後、MRとして必要な知識・スキルを身につけるための研修を配属までの約3か月間継続します。また、12月に実施されるMR認定試験の合格を目指し、直前には合宿研修などのサポートも行います。

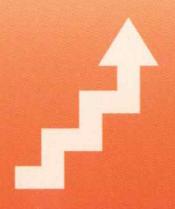


年次研修

1年次～3年次、5年次と各年次に適したプログラムで研修を行います。その他、課長職や部長職といった階層別の研修を行っています。また、各種自己啓発補助などにより、成長したいと考える社員の学びをサポートする制度も備えています。



キャリア



社員の多様なキャリア志向に応えるためタレントマネジメントシステムを導入しています。Webによる「キャリア自己申告制度」を整備し、一人ひとりの能力を最大限に活かすジョブローテーションを推進しています。また、若いうちからマネジメント能力や専門性を活かして会社に貢献することを望む社員に向け、入社4年目からチャレンジできる主任資格試験を導入しています。





あすか製薬株式会社
マスコットキャラクター
あすかちゃん

会社概要

会社名 あすか製薬株式会社
(ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.)
本社 〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL : 03-5484-8361
創立 1920年（大正9年）6月16日
設立 1929年（昭和4年）6月28日
事業内容 医薬品、動物用医薬品、医薬部外品、食品
および医療機器などの製造・販売ならびに輸出入
代表 代表取締役社長 山口 隆
資本金 11億9,790万円
従業員数 842名（2019年3月31日現在 連結ベース）



会社概要是こちらから

https://www.aska-pharma.co.jp/aska_recruit/index.html



すべての絆とともに歩む

私たちあすか製薬は、2020年に創立100周年を迎えます。

1920年の創立以来、一貫して「創薬」にこだわり、
患者さんにとって価値ある医薬品の創製・提供を続けてきました。

これまでの100年を、これからのお未来につなげていく。

「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」という経営理念のもと、
あすか製薬はこれからも、人々の「生命(いのち)」に関わる企業として、
すべての絆とともに歩んでまいります。

 あすか製薬株式会社

〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号

<http://www.aska-pharma.co.jp/>

1920年創立、2020年には100周年を迎えるあすか製薬。数々の医療用医薬品を手がけ、長年、人々の健康と医療への貢献を続けてきました。長い歴史を誇る同社は過去の積み重ねを大事にしつつも、業界を驚かすような新たなチャレンジにも乗り出している。

100周年を迎える次のステージを目指す同社の経営トップにお話をうかがった。



写真撮影：長谷川博一 取材・構成 塚田有香

特別
インタビュー

創立100周年・あすか製薬の目指す オープンイノベーションとは？

伝統を守りつつ、 さらなる飛躍に 向けたチャレンジを

山口 隆 Takashi Yamaguchi

あすか製薬(株) 代表取締役社長

1952年生まれ。91年6月、代表取締役社長に就任。

普段気つかなくても 身近にある医療用医薬品

2020年に創立100周年を迎えるあすか製薬。「内科」「産婦人科」「泌尿器科」の三領域に特化した医薬品の研究開発・製造・販売を行ない、医療現場で大きな存在感を發揮してきた。同社の山口社長は、事業内容をこう説明する。

「あすか製薬の製品は、ドラッグストアなどで自由に購入できる一般用医薬品ではなく、病院

などで医師の診断を受けた人が処方される医療用医薬品です。そのため、一般の方たちには弊社の名前を認識していただく機会はそれほど多くないかもしれません。しかし、意識しなくても身近にあるし、それがないと多くの人が困る。そういう意味で、弊社の医薬品は『空気のような存在』と言えるかもしれません。

人間の健康な状態をゼロに戻すもの。マイナスのままでは通常の生活さえ送ないので、まずは基本的なレベルに戻す。そのお手伝いをするのが我々の役割だと考えています」

元々、「帝国社臓器薬研究所」としてその歴史をスタートさせた同社は、創業時から内分泌やホルモンの分野を得意としてきた。現在、重点領域としている三つの分野も、その流れを汲む。「医薬品の研究開発は、過去から積み重ねの上に成り立つもの。だからこそ、内分泌やホルモンという我々の原点を活かした医薬品をこれからも開発していく。それが弊社の基本方針です」

トータルヘルスケアで ビジネスチャンスを創出

長い積み重ねの歴史を活かすとしても、古いやり方に固執するという意味ではない。「医薬品業界はこれまで、閉鎖的な世界でした。しかし今後は、A.I.などのテクノロジーを活用したり、他業種が健康分野に参入してきたりといった変化が加速するのは間違いないと感じます。すると、医薬品の概念そのものが変わってしまう可能性もある

「昨今は女性の社会進出が進んでおり、また、医薬品についての情報も十分ではないのが現状です。我々は世界基準の医薬品を提供とともに、女性はもちろん男性にも、女性特有の症状や性変革も必要となる。そのため



ります。実際、1回の投与が3000万円を超す高額な医薬品が登場したり、遺伝子レベルでの治療が可能になつたりと、またたく新しい薬剤や治療法が登場しています。

こうした変化に対応するためのキーワードは、「トータルヘルスケア」だと思っています。これまで製薬会社は、「治療」のための医薬品を提供してきました。しかしヘルスケア全体で見れば、治療の前には「検査・診断」があり、その前には「予防」がある。さらに治療の後には「予後」もあります。つまり、医療をトータルで見ることで、新たに

なニーズを発掘していく必要があるのです」

そのために重視しているのが「オープンイノベーション」の推進だ。これまで学術機関との連携などは行なつていたが、外部との連携をさらに強化する。「これまでの医薬品業界のビジネスモデルは、自社のアイデアや技術をなるべく外に見せず、特許を取り、ノウハウを大切にしながら新薬を開発することが当たり前でした。

しかし、これからは医薬品業界も自社のノウハウをオーブンにして、外の世界の人たちと積極的に交流していくべきだというのが私の考え方です。

自前主義を捨てて、 研究拠点もオープンに

そのチャレンジの一環として、神奈川県川崎市にある自社の研究所を、様々な企業や研究機関が集まる湘南ヘルスイノベーションパークへ全面移転すると発表。これは製薬業界では極めて異例であり、大きな注目を集めました。

「研究部門の一部を外部の施設に移転する企業はあっても、自社の研究機能のすべてを自社以外の施設に移すという製薬メー

リスikoも伴います。しかし、今はスピードこそが価値です。良い発想や技術を生み出しても、早く世に出さなければ意味がない。それには自前主義では限界があります」

もちろんノウハウの公開にはリスクも伴います。しかし、今はスピードこそが価値です。良い発想や技術を生み出しても、早く世に出さなければ意味がない。それには自前主義では限界があります」

そのチャレンジの一環として、

神奈川県川崎市にある自社の研

究所を、様々な企業や研究機関

が集まる湘南ヘルスイノベーシ

ョンパークへ全面移転すると発

表。これは製薬業界では極めて

異例であり、大きな注目を集め

ました。

働き方を変え 新たなチャレンジを

カーハーは弊社が初めてでしょ。しかし先ほども述べた通り、今はスピードの時代です。急速な技術の進歩に対して、フレキシブルに動ける体制が必要となる。だつたらあえて外部の施設に移り、外の人たちと交流しながら研究を進めてみよう。そう考へ、決断を下しました。

今まで築き上げたものに固執せず、自前主義を一度白紙にして、そこから5年後、10年後を考えてみよう。社員たちにはそ

う話しています」

「オングラフをしっかりと分ける働き方も、今後は重要なでしょう。私自身、「次の週末にあれをしよう」と予定を決め、それを楽しみにしながら日々の仕事に取り組んでいます」

今後の変革のカギは、30~40代のミドル社員が握っている。

「どの企業も30代や40代の発想

やエネルギーを必要としていま

す。この年代が頑張らないと、日本は強くならない。だからこ

そ、自身が持つ意見や知識を遠慮なく上にぶつけてほしいし、

弊社もその意見がどんどん通る

ような風通しの良い会社にして

いきたいと思います」



伝統を守りつつ、 さらなる飛躍に向けたチャレンジを

あすか製薬・創立100周年 特別インタビュー

1920年、日本が大正デモクラシーに沸く時代の転換期に、
あすか製薬のルーツである「帝国社臓器薬研究所」が創立されました。

そこから昭和、平成そして令和と大きな時代の変化を経て、
2020年、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、

また新たな時代の到来を告げる年に、あすか製薬は創立100周年を迎えます。

世の中の変化とともに、医療や医薬品の進化がますます加速していくこれからの時代、
革新的かつ独創的な医薬品で医療の現場に貢献してきたスペシャリティ・ファーマとして、
どのような成長を目指していくのか、

代表取締役社長 山口隆がインタビューで語りました。



「THE21」
2019年11月号掲載抜粋

